

2022.6.6

ミラノサローネは、マリオ・クチネッラ・アーキテクトによる素晴らしいプロジェクト、「Design with Nature | デザイン・ウィズ・ネイチャー」で、未来の住まい方を提案

Design with Nature | デザイン・ウィズ・ネイチャー (自然に寄り添うデザイン) は、倫理観、循環型社会、家庭空間、参加型建築、都市再生など、さまざまな観点から考察されています。これは、リサイクルとアップサイクルを追求し、持続可能な生活の価値についての議論の一旦を担う、デザインと感情の旅です。

サステナビリティに対して、デザインはどのような位置づけにあるのでしょうか。新しい暮らしの時代の到来を(都市と家庭で)加速させることはできないか?。デザインするための具体的かつ最新のツールや素材は何か? 建築家Mario Cucinella (マリオ・クチネッラ) がキュレーションし、S.Project Hall 15で開催される「デザイン・ウィズ・ネイチャー」展を通じて、第60回ミラノサローネは、これらの問いに答えたいと考えています。

ミラノサローネは、環境問題への取り組みに抜本的な改革、新しい環境教育、そして変革が可能であることを意識し、マリオ・クチネッラを招き、地球に住む方法の変革、未来の環境の予言者としての建築家やデザイナーの役割をテーマに、領土、都市、風景の間の難しい均衡の「再」構築をテーマに討議します。このように「デザイン・ウィズ・ネイチャー」は、循環型経済と再利用をテーマに、都市は未来の「予備軍」であり、建築に使われる原材料のほとんどを調達することが可能であるとしています。

このインスタレーションは、エコロジーの移行、都市の最初の構成要素としての家、鉱山としての都市という3つのテーマを扱っており、広大な敷地は風景と対話のためのスペース、議論、共有、読書、考察のための避難所となっています。2つの大きなテーブル(68mx22m、1,400㎡)はエコロジーの変遷と都市の素材を語り、近年の出来事を経て、私たちを取り巻くもの(空間や利用できる資源)との新しいバランスを見つけなければならない社会性の価値を再発見し、人々が集まることのできる空間を表現しています。

このことは、マリオ・クチネッラ・アーキテクトの設立者でありアーティストック・ディレクターが語る、エコシステムとしての「デザイン・ウィズ・ネイチャー」のビジョンに反映されています:

「デザインと環境に配慮した、新しい社会性に特化した大空間。このインスタレーションでは、『エコシステム』という言葉が根底にあり、未来のビジョンがいかにエコシステムでなければならない、新世代の素材とデザインにおける知識、スキル、技術を結びつけるこ

とができるかを伝えたいインスタレーションです。生態系の知識 "とでも呼ぶべきものは、自然に対する新たな敬意を通じて、生活をより良いものにするという究極の目的を持っています。『デザイン・ウィズ・ネイチャー』は、多くの人が考えるきっかけとなるような物語を作ることを目的としています。今日、私たちはこれまで以上に、日々の選択が未来に影響を与えることを意識しています。」

自然素材や植物を使ったディスプレイは、しなやかで豊かな「緑」のうねりを作り出し、自然との新たな、そして根本的な友情の大切さを表現しています。

自然の一部であるすべてのものが変容し、より多くの機能を持ち、より多くの生命を持つように、「デザイン・ウィズ・ネイチャー」を構成するパーツもまた、**形と機能のジグソーパズル**となり、ミラノサローネで**新しい生命**が宿り、開催後は、学校の小さな図書館、教室、公共スペースの椅子、ワークショップ用のテーブルなど、**新しい行き先**を持つことになるのです。この展示では、エコロジーへの移行がすでに始まっていること、そして企業がこの変化において主導的な役割を果たすことができることを示す、**自然のサプライチェーン**から得られた素材、あるいは**廃棄物を加工して再利用**した素材が紹介されています。都市は、**循環型プロセス**を通じて回収可能な資源や素材の真の埋蔵地であり、豊かな貯蔵庫なのです。

このように、**植物性廃棄物や動物性廃棄物**、そして人間が排出する廃棄物が、**農業、工業、都市**を問わず、すでに「別の何か」へと**変化**し、発生する素材に第二、第三の人生を与える**新しい原材料**へと変化していることを実証しているのです。ペットボトル、靴や家具の製造工程で出る廃棄物、日よけだけでなく、ファッションやテキスタイルの世界で新しいファブリックが生まれ、コーヒーから床材、果物の皮から革、菌糸から断熱パネルなど、新素材の一端が展示されているのです。

「デザイン・ウィズ・ネイチャー」は、原材料を消費し続けることなく、エコロジーな行動を誘発することで、自然との共生の中で製品を作り上げる別の方法を考え出せることを証明します。

ミラノ工科大学のIngrid Paoletti (イングリッド・パオレッティ) 教授の科学的支援のもと、MCAが研究している**天然素材とそうでない素材**を、一連のトーテムで来場者に説明します。**原産地、加工工程、使用方法、完成品**を示すテキストやグラフィックを通して、**素材の新しい生命**を物語ります。Accurat (アキュラット) による**グラフィック作品**は、サステナビリティのテーマを再提案し、Zeranta (ゼランタ) による**ビデオマッピング**は、「**鉱山としての都市**」を公開します。

マリオ・クチネッラにとって、サステナビリティは教育プロセスの中心的な要素でもあるため、6月12日(日)には、SaloneSatellite(サローネサテリテ)のアリーナ(ホール 3)で、



2015年に彼が設立した修士課程、SOS - School of Sustainabilityの学生による年度末プロジェクトの発表会が行われます。このイベントは一般公開され、マリオ・クチネッラに加え、サイエンティフィック・ディレクターのAldo Colonetti（アルド・コロネッティ）と学生たちが登場します。

Design with Nature. For new materials. For a new habitat. For a better city.

デザイン・ウィズ・ネイチャー。新しい素材、新しい暮らし、より良い街のために。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it